| 令　和　2年 2月 18日 | |
|---|---|
| 資　料　提　供 | |
| 担当課(室) | 県立博物館 |
| 担当班・係 | 学芸課 |
| 担　当　者 | 主任学芸員 大河内 |
| 電　　　話 | 073-436-8670（博物館代表） |

# 紀の川市・大国主神社への「お身代わり神像」の奉納について

県立博物館では、県立和歌山工業高等学校、和歌山大学教育学部の協力を得て、3Dプリンターを用いた文化財の精巧な複製を作り、文化財の防犯や防災の対策への活用を図っています。高齢化や人口減少などの要因により、管理や保全が困難になっている地域の寺社にある文化財を博物館で保管し、かつ、信仰されてきた環境を維持するための取り組みで、平成24年度から31年度までに、県内14か所の寺社に28体の「お身代わり仏像（神像）」を安置しています（※今回を含むと15ヶ所・29体）。

このたび、昨年10月から製作していた紀の川市・大国主神社の権大明神立像のお身代わり像につきまして、下記日程にて奉納することとなりましたので、お知らせします。

現地には製作に携わった県立和歌山工業高等学校の生徒と、着色作業を行った和歌山大学の学生が訪れ、新たに製作したお身代わり像を地域住民の皆さんにお渡しし、交流を図ります。

なお、今回の奉納は、生徒・学生が地域の方々と交流を行うことで学びをより充実したものにするとともに、住民の方々がお身代わり像をより身近に感じていただく機会とすることを目的としています。

※お身代わり像の製作は文化庁補助金「平成31年度地域と共働した博物館創造活動支援事業」の成果によるものです。

---

日　時　令和2年(2020) 2月27日（木） 10:00～11:30ごろ終了予定
場　所　大国主神社（紀の川市貴志川町国主1）※車は神社境内に駐められます。
参加者　宮司・氏子のみなさん、和歌山工業高校産業デザイン科生徒・教員
　　　　和歌山大学教育学部美術科教育専攻学生・教員
　　　　紀の川市教育委員会職員、和歌山県立博物館職員
内　容　社務所にてお身代わり像の奉納及び生徒・学生・地域住民の交流
当日連絡先　主任学芸員 大河内智之（090-9546-6094）

---

左：実物　右：お身代わり神像

## 権大明神立像（紀の川市指定文化財）　像高37.1cm

もと紀の川市貴志川町上野山にあった権大明神社（廃絶）に伝わり、現在は大国主神社に合祀されている神像です。華麗な小袖に腰蓑をつけて草鞋を履いた農夫の姿で、左手には鍬を担いでいたようです。鎌倉時代前期に貴志荘の開発に携わったと言い伝えられる貴志権太夫正平を、農業神として祭祀したものです。

背面には朱漆で慈眼院日眼（？～1668）という僧の名前が記されています。日眼は江戸時代の貴志荘を所領とした、紀伊徳川家の付家老・三浦氏の菩提寺である了法寺の住職を務めた僧で、本像の制作時期も江戸時代前期と判明します。

# 3Dプリンター製お身代わり仏像の制作方法

（図1）

（図2）

（図3）

①3Dスキャナーを用いて資料を様々な角度から非接触で計測（図1）。
②得られた3DデータをCADソフトを用いて修正（図2）。
③3Dプリンターを用いて、ABS樹脂やASA樹脂等で出力。
④部品の接着、表面の研磨等による下地仕上げ。
⑤アクリル絵の具を用いて彩色し完成（図3）。

製作にあたっては、和歌山県立和歌山工業高等学校産業デザイン科の担当教員と調整の上、実習時間にあわせて学芸員が資料を輸送し、生徒と計測やデータ修正の作業を進めています。完成したデータは3Dプリンターで出力し、各パーツは博物館職員によって表面をアセトンで融解したりサンドペーパー、ルーターを用いて研磨した後、接着して隙間をエポキシパテで埋め、ジェッソを塗布して下地処理を行います。その上で、ミュージアムボランティアに登録した和歌山大学教育学部学生が博物館内でアクリル絵の具を用いて着色しています。